

# 派遣隊ニュース

## ～ with 岩泉 ～

No. 2 平成23年4月12日

かんばってるよ～



春本番を迎えようとしていますが、岩手県岩泉町では、深夜には気温が氷点下になるなど、まだまだ寒さが厳しいようです。

東北地方太平洋沖地震の発生から1ヶ月が経過する中、引き続き余震の影響もあり被災者や町職員の方々のストレスや疲れは大きくなってきているものの、まちそのものは一定の落ち着きを取り戻しつつあるようです。また、小学校や中学校の入学式を挙行することができたとの明るいニュースも入ってきています。

今号は、派遣隊第2班の皆さんの報告です。

### ◎岩泉町派遣隊第2班

- ・派遣期間 平成23年4月2日(土)から4月9日(土)まで
- ・主な任務 避難所に避難している人たちが被災地に行ったり、仕事に出かけたりする場合の入退室管理

<平成23年4月11日(月) 8時50分 市長室にて報告>

### 避難所

- 少しずつだが、親戚や身内の家に移っていく人たちが出てきている。岩泉町民会館に約50人、龍泉洞温泉ホテルに約140人が避難している。なるべく多くの避難者をホテル(個室)に移していくことで、プライバシー対策にもなっているようだ。
- 一方で、震災時から親戚や知り合いの家で避難していた人たちから、「長くは居にくい」との理由で、避難所に入れないかという相談も出てきている。

### 仮設住宅

- 今月中に約130戸の仮設住宅が完成する予定で、現在、避難所に避難しているほとんどの人たちが入居できそうである。
- 仮設住宅には、冷蔵庫、洗濯機、テレビ、掃除機、エアコンなどが常設される。
- 仮設住宅に入居予定の人たちは高齢者が多く、今後、介護サービス、精神的ケア等の必要が出てきそうである。

### 町民

- 努めて明るい表情を見せてくれるものの、疲れやストレスから嘔吐感の出た人もいる。
- 治安が少し悪くなってきている。漁業関係者の機材が盗まれる事件等が発生している。
- 壊滅的被害を受けた小本地区から避難してきた人から「何年かかっても、やっぱり小本に戻りたい。」とお話を聞いた。
- 震災で亡くなった9人の方々に対する「岩泉合同慰霊祭」の準備が進められていた。

## 支援物資

- 「龍ちゃんドーム」に十分届いていた。現在、小分けにしたものを袋に入れて少しずつ配布しているが、仮設住宅が完成すれば、家族単位で大量に配布する予定。

## ボランティア

- 小本地区には、まだ、自衛隊、消防、警察と地元の人たちしか入ることができない。
- 社会福祉協議会を通じてのボランティアが、避難所で「今後、ボランティアに何を求めるか」というアンケートを実施していた。
- 秋田県からのボランティアが、大部屋用パーテーションの設置と弁護士相談を行っていた。

## 医療

- 保健福祉センターの看護師(12人)が主となって、要看護者の巡回をしている。

## 交通

- 交通機関は、ほぼ平常どおり運行している。(岩泉線は一部区間のみの運行)
- 国道はほとんどが通行できる。ガソリンスタンドでも購入制限はない。

## 余震

- 4月7日深夜に発生した最大規模の余震時には、かなりの揺れを感じ、翌日の午後2時30分まで停電したが、地元の人たちは極めて冷静であった。

### 【北川市長の派遣隊員への言葉】

第1班に続き、よくがんばってきてくれた。隊員の皆さんには、この体験を生かして、今後も活躍して欲しい。

#### 【派遣隊第2班の皆さんの感想】

遠藤弘文さん(生涯学習部市民会館・公民館)

壊滅的被害を受けたまちの姿を目の当たりにし、自然の怖さを知った思いだ。一方で、被災者や町職員の方々の明るさに救われ、全国から集まった支援物資に被災地への温かい思いを感じた。

村山政弘さん(子ども家庭部子ども育成課)

現在の小本地区は、ここにまちがあったとは思えない姿で、終戦直後の荒地をイメージさせられた。「何かしなくてはいけない」との思いから派遣隊に参加したが、少しでも役に立てたならうれしい。

加藤 弘さん(学校教育部学校給食課)

津波に襲われた地区では、戦争映画のシーンを見るように言葉が出なかった。被災者の方々が寡黙にがんばっている姿に「東北人の根性」を見た思いだ。

井上健二さん(学校教育部学校給食課)

被災者の方々と話してみると、昼間は元気なように感じるが、夜になるとまだまだ不安や苦しさが出てくるようだ。「普通に生活できること」のありがたさを実感した。

